

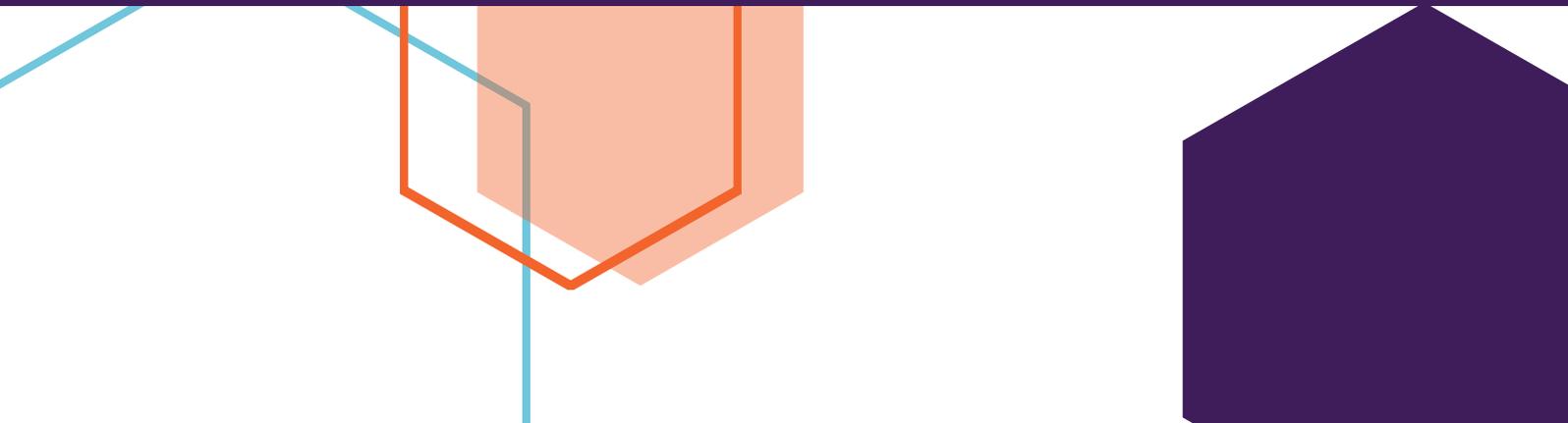


第2層協議体

ミニふれあい会議

白井駅前包括支援センター

定例打合せのなかで課題として白井駅前包括支援センターから挙げられた通いの場不足（ミニデイがパンク寸前）、包括支援センターの隣にあるルネサンスジムは地域に根付いたフィットネスジムとしての営業も見据えている。





第2層協議体

白井駅前包括支援センター

きっかけ

7月頃 個別案件の地域資源探しがきっかけで、ルネサンスジムを訪問。その際に店長の村上氏より、地域に根付いたジムとなるべく地域の高齢者を対象としジムを利用する事のハードルを下げて広く地域に愛されるような企画や運営を考えている。高齢者の日常的な通いの場になれば嬉しいとのお話を聞いた。



7月28日(木) 白井駅前地域包括支援センターとの定例打合せにてマルエツ横のカーブスが撤退した。カーブスに通えていた方のミニデイの利用者が増えている。ケアプランの負担、ミニデイの定員すべてがパンク寸前である。また、カーブスに通っていた方の体力を考慮すると本来はミニデイの利用は望ましくない。しかし、送迎付きでミニデイを利用できるといった友人の口コミや、近隣の通いの場が限られていることもあり、ミニデイを利用している現状。

上記の内容聞き取った。

第1回会議は

- ・包括、ルネサンスジム双方よりそれぞれの現状についてお話してもらった。
- ・ルネサンスジムでも認知症のような方は2名ほどいるも、スタッフがいる時間で対応中。
- ・包括よりまずは今あるサービスを今後の予防や通いの場が必要な方へ提案してみたいとのこと。

ルネサンスジム、白井駅前包括支援センター、両者のニーズをうまくマッチングすることができれば、高齢者の通いの場になるのではないかと考えた。

前向きに取り組んでいただければ、厚生労働省「2040年を展望した主な取り組み」の資料を参照しながら、フィットネスジムが高齢者の通いの場として身近なものとなるような取り組みが行われる見込みでことを説明し



展開

- ・まずはルネサンスジムにある既存のサービスのなかで利用できるものを包括から提案していく。→SCの情報提供として包括には活用してもらうため情報紙の作成をする。
- ・ジムの外にパラソルやベンチを置いて気軽に集まれる場所をつくる。
- ・ミニデイの強みとしては送迎付きというのがかなり大きい。そういう選択肢があるなか、自らの足でジムに通ってもらうことの難しさがあると思う。



これから

- ・SCから包括へ情報紙をお渡しし、地域の方の利用の様子を観察する。
- ・今後も高齢者の通いの場として活躍してもらえよう適宜介入する。



CSの動きや考え方、他の連携

今回に関しては協力ベースではなく事業として継続、発展していくことができないか模索していく必要がある。



第2層協議体

白井駅前包括支援センター

きっかけ

ルネサンスジムより、さらに地域の方へ開かれたプログラムを提案したいとのことで、二度目の打ち合わせとなる。

第2回会議は

参加者：株式会社ルネサンス 地域健康推進部 井田氏
株式会社ルネサンス 業態開発部 白井店支配人 川崎氏
ルネサンスジム白井駅前店 店長 村上氏

白井駅前地域包括支援センター センター長 櫻田氏
上野氏
田口氏
他一名

社協 生活支援コーディネーター 秋本・鈴木・市村

展開

井田氏より以下の提案がされた。

- 市民対象の講習会（入会が目的の体験会ではなく）
- ICTの活用が求められていることから、スマホ教室
- 認知症予防教室
（いずれも単発、継続が可能。費用は1回3万円。）

川崎氏より

- 体験などで、青竹踏みなどを実施することは可能である

包括より

- ジムやスタジオの場所を借りるとしても机、イスが必須なので用意をお願いしたい
- 高齢者が利用する平日の日中のみの料金のプランを策定してもらいたい
（→川崎氏：検討はしているがニーズがどの程度か不明）

今後

どのような形で話を進められるか検討する必要がある。

CSの動きや考え方、他の連携

池の上地区社協で行っているハツラツ脳トレも、市がルネサンスに委託していたことが分かった。

団体立ち上げ前提で、12回の研修+2回のフォローアップやプログラムが組み込まれたDVDの提供などをおこなっていた。



包括も社協もそれぞれ市の委託で事業を行っている。

また、市としては立場上特定の企業の利用を推奨することはできない。これ以上踏み込んだプログラムの実施するにはどのように展開していくのがよいか…

第 2 層協議体

